



大久保小だより



平成31年2月1日第13号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子147名女子122名計269名

学校教育目標 **カいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

地域とのつながり

校長 金子 要一

先月、6年生の代表選手が桜区のサッカー大会に出場しました。女子は、PK戦の末惜敗し、第3位でした。男子は、桜区大会に優勝し、見事中央大会進出を決めました。本校の**中央大会出場**は、平成19年度以来で、**11年ぶりの快挙**です。そして、中央大会でも1日目を勝ち抜き、**第3位**に輝きました。**予選を含め45校参加した大会で3位**です。

この大会に向け、選手は放課後をはじめ冬休みも練習を積んできました。そして、何より素晴らしいことは、出場できなかった6年生が練習相手を務めてくれ、大きな声で声援を送ってくれたことです。この姿を下級生が見て引き継いでくれることと思います。

このように、本校の児童たちは様々な面で活躍しています。そして、その様子が新聞やテレビで取り上げられました。11月には5年生の浦和北高校での「ロボット体験学習」の様子が新聞とテレビで、12月の持久走大会の様子はテレビで、さらに、先月の「お正月遊び」は新聞2社とテレビ2社が取り上げました。これらはいずれも本校独自の地域に根差した行事ばかりです。

本校の**地域とのつながりの強さ**を表すものとして、今年度の全国学力・学習状況調査の結果があります。その中の「生活習慣と学習環境に関する質問紙調査」の「今住んでいる地域の行事に参加している」という質問で、本校児童の回答率は、全国、大都市、さらにさいたま市の平均値よりも大きく上回っているのです。確かに、児童の多くが各地区で催されるお祭りや盆踊り、運動会に参加し、さらに、それぞれの地区に伝わるお囃子や獅子舞、ひょっこり踊りを習っている児童もいます。

また、本校東門の脇に「**二宮金次郎**」の石像があることをご存知でしょう。この石像について「**開校五十周年記念誌**」に以下の記述があります。



昭和八年十二月二十五日、皇太子殿下誕生、これまで内親王にはめぐまれていた皇室は日継ぎの皇子の誕生に大歓喜。国民も湧いた。この慶事を奉祝し、翌九年十一月、大久保の山崎常吉氏、湊川弥五郎氏、東京の萩原権次郎氏の三名が、二宮金次郎像を学校に贈った。戦時中、銅像は、軍に回収され戦力の一助とされたが、本像は石像のため健在である。この像は、もと現在の歩道橋の足元あたりにあったが後に、旧木造校舎の玄関わきにすえられ、体育館建設の際また、旧正門わきに移された。今回の同門付近の改修でまたわずかではあるが、南よりに移動した。(後略)

さらに、運動会や、バスケ、サッカーの壮行会でも使用している**大太鼓**も昭和17年に地域の方から寄贈されたものです。この太鼓について同じく記念誌には「戦時中は大太鼓をうちならし授業の終始の合図をした」とあります。

この他、5月の青空を泳ぐ大きな**鯉のぼり**や、3月北校舎に飾られる**ひな人形**、昔の農機具や生活用品、ポンプ式の消防車など地域から頂戴したものが本校にはたくさんあります。その中のいくつかは、今でも大切にに使わせていただいています。

この地域に生まれ、地域で育っている子どもたちには、立派に成長して、いずれ地域を支え、本校とつながる大人になってくれることを望みます。